

朝日連峰大朝日岳山麓

ハチ蜜の森から

No. 30



ありがとうございます。
おかげさまで20年になりました。

ハチ蜜の森

採蜜ができるトチやキハダをはじめマンサク、コブシ、カエデ、ヤマザクラ、ドウタン、ウワミズザクラ、ミズキ、クリ、ハクウンボク、タラ、コシアブラ、センノキ、ヌルデ、クズ、イタドリ...と、数多くの蜜源樹や植物を抱える森のこと。ハチ蜜の森キャンドルは、その森の入り口にあります。

編集発行

ハチ蜜の森キャンドル

代表 安藤 竜二

☎990-1573 山形県朝日町立木 825-3

☎とファクシミリ 0237-67-3260

ホームページ www.mitsurou.com/

発行日 2008年2月2日

蜜ロウソク屋のプライド

昨年は相次ぐ食品偽装が露になった年でした。残念なことに、異性化糖入りのハチミツまで出てしまいました。同じ物作りの人間として「プライド」を改めて問われた年になりました。

でも実は、私も「ろうそく屋」のプライドがないのです。うっかり「ろうそく屋」である自分を忘れていることもあります。取材などで聞かれると、ちぐはぐしてしまうことがあります。自分でもおかしいことだと思っています。でも、蜜ロウソクにける思いは絶対に日本で、「研鑽」をなによりのスローガンにしています。しかし、自分の中で「ロウソク屋」は、やはり二番なのです。ではどこに一番のプライドがあるのか？この機会にじっくり整理してみました。

たとえば、私は

「蜜ロウソク職人」

と、紹介されることがあります。



こんな感じで作っています

嬉しいものの、なんだかとてもおこがましい気持ちになってしまいます。私にとっての職人はもっと崇高な憧れの存在だからです。職人とは、“いい物を同じ形に、たんたんと幾つも作り出すことのできる人”と聞いた事があります。まだ至ってないような気がします。それに、なにか物足りない気がするのです。

「キャンドル作家」とか

「キャンドルアーティスト」

と、紹介されると、少し腹立たしく感じます。この気持ちは私自身もよく分からない感情でした。私にとって作家も芸術家も憧れの職業なのに、一番遠いイメージで呼ばれているような気がします。

「養蜂家」

と、紹介されると、家業を継いでくれている弟や本当の養蜂家の皆さんに申し訳なく思ってしまう。私が一年中養蜂を手伝っていたのはたった8年間だけで、その後は、移動や採蜜、スズメバチ退治など忙しい時だけ手伝う程度なのです。ポピュラーなところだけをつまみ食いしているようなものです。でも、養蜂があるから現在があるので、実は少しは呼ばれたい気持ちもあります。でも、やはりそれだけでは足りないのです。

「蜜ロウソク製造業」

と呼ばれると、やはり今のところ一番ほっとします。私は蜜ロウソク製造を業にして家族を養っています。一年中、蜜ろうのことを考えない日はありません。これだけ蜜ろうに恋焦がれている人間はおそらく日本にいないと思います。うす汚れた作業服の工場職人にも憧れています。だからこの肩書きが一番ほっとします。でも、それでもなにか物足りない気がするのです。

近頃、東北地方全域をカバーする新聞「河北新報」から職業や活動に関わる事で6回の原稿依頼をいただきました。書くのは好きですが、仕事やNPO活動に追われて自分のこの

私の仕事

私は「伝燈業」を営んでおります。

森の自然が、優しさを灯りに込めて人に放つための、お手伝いをする者です。ですから、私が蜜ろうそくの主ではありません。主は森です。自然です。

森の樹々や草々は、大地から神聖な水や養分を受け取り、体内加工して甘い蜜を作り、花を咲かせます。ミツバチは、神聖なハチミツを受け取り、体内加工して蜜ろうを作ります。私は、神聖な蜜ろうを受け取り、小さな工場でこつこつと蜜ろうそくを作ります。

私は、いかにこの灯りの魅力を損なうことなく、汚すことなく、多くの人に伝えることができるかを、日々努力しています。樹々や草々やミツバチと同じで、それが私と森との間に交わされた契約なのです。

特に、人々がロマンチックな聖夜を迎えるまでの三ヶ月間。私はとても忙しい季節を過ごします。やりたいこともやれずに、朝から深夜まで働き続けます。「伝われ、伝われ」と、願いをこめて作り続けます。正直、辛いと思うこともあります。でも、仕方ないのです。嬉しいのですから。一人でも多くの人に伝えたくて、体がひとりりで動いてしまうのですから。

人々は、神聖な蜜ろうそくを受け取り、きつと、優しさに満ちた夜を過ごすことができます。その優しさで何かを作って、誰かに渡してくれるといいなというも思っています。

私は森の「伝燈使」です。

よく考えると私も自然でした。

ハチ蜜の森キャンドル 安藤竜二

通信もなかなか発行できない私が（定期ご購入の皆様、ごめんなさい）、〆切のある文章を果たして書けるのか、とても悩みました。ただ、15年程前に、はじめて私に書く機会を下さったのはこの河北新報なのです。とても緊張して震えるような気持ちで書いたのを思い出します。文章の得意な友人に整理してもらい、なんとかでき上がったのですが、それが新聞に掲載されたことは、若い私には大きな喜びでした。はじめて書く楽しさを知ったのです。ですから、とても恩を感じている新聞社なのです。

判断しかねて、その原稿を久しぶりに読み返してみると、こんなことを書いていました。「…自然界の全ての生き物は、誰かに恵みを貰い誰かに恵みを返している。「貰ったら返す」という、ごく当たり前の事が、もしかしたらこの世で一生を送る為の最低限のルールではないだろうか。だとしたら、こんなに理

不尽な事はない。我々ヒト科の動物は、あらゆる自然から恵みを受けているのに、何も返していない。そればかりか、森や川に捨てられたゴミのように、恩を仇で返してさえている。森に入る度、人間の本当の気持ちが見えてしまうようで悲しくなる。今人間が求められていることは、まずもっともっと自然と人間の関わりを知ることではないだろうか。そして、関わりを知れば必ず愛着が生まれる。本来人間が自然に返すべき事は、その「根っこの付いた愛情」だったはずではないか。」

（全文はホームページをどうぞ）

なんだか二十代の若い私に怒られているような気がしました。自然を熱く思うあの頃の刺々しさや勇気は、なんだか色あせていたような気がします。

でも、やっぱり私の一番のプライドは確かにここにあるのです。はじめて蜜ろうに火を灯した日の感動を、多くの人にも伝えたい。

自然と人の距離を縮めたいと願ってはじめての職業だったのです。

私にとって蜜ろうそくは、森や自然の魅力を伝えるための「手段」なのです。だから、蜜ろうそく製造そのものに一番のプライドが育ってこなかったのです。

「ナチュラルリスト」のことを、日本ナチュラルリスト協会を30年以上も前に仲間と立ち上げた西澤信雄さんは「自然の中に人が見え、人の中に自然が見える人」と言います。若い頃は、なんだかピンときませんが、今は素直に「なるほどな」と思います。

「伝曲家」。

自然の音を感じて歌い奏でる作曲家の青木由有子さんが、だいぶ前のラジオで話されていました。「私は作曲家ではありません。自然から大切に音を受け取って人に伝える伝曲家です」と。奥ゆかしく、言葉少なく話されてはいても、熱いものを感じ、とてもかっこいいなと思いました。

と、いうことで、まとめます。

ハチ蜜の森キャンドルの蜜ろうそくは、アーティストが作る蜜ろうそくではありません。ナチュラルリストの私が作る蜜ろうそくです。私は森の灯りを大切に伝える「伝燈使」です。

でも肩書きは、説明が長くなるので、蜜ろうそく製造業でお願いいたします。



絵/小鹿朋美さん

※異性化糖

トウモロコシ等のデンプンから作られた安価な液状糖

NEWS

蜜ろうそく 20年！

おかげさまで、昨年10月に、蜜ろうそくを手がけてちょうど20年になりました。まさに「あつという間」でした。

15年前に西澤信雄さんの通信「朝日鉱泉だより」をまねて出したこの通信「ハチ蜜の森から」は、滞りながらも30号になりました。通信1号の表紙は、未完成のドームハウス工房の前で息子を抱えて家族3人の写真でした。10号では娘と4人になりました。そして30号では新しい工房の前で大きくなった子ども達との写真を使いました。

振り返ると奇跡でした(笑)。支えて下さったみな様に感謝の念でいっぱいになります。心から御礼申し上げます。

成人した蜜ろうそく。これからも冒頭に掲げた作文「私の仕事」のコンセプトとプライドを大切に、研鑽して参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

全国地球温暖化防止活動推進センター

ストップおندان館で講座しました

3月末の桜の季節。東京タワーのふもとにある「ストップおندان館」で、親子を対象に蜜ろうそく講座を開催していただきました。

おندان館は、地球温暖化について大人も子どもも学べる施設です。開催までの空いた時間にいろいろな展示物を拝見しましたが、楽しみながら勉強できる工夫された展示となっていました。ワークショップも度々開催されており、私も環境を配慮した生活術の蜜ろうそくマイスターとして呼んでいただいたのです。前日は「ふろしき」、前々日は「箸」の職人さんの講座でした。養蜂で感じる温暖化についてお話させていただきましたが、私自身、改めて温暖化のことを考えさせられた講座になりました。

ストップおندان館ホームページ

<http://www.jccca.org/ondankan/>

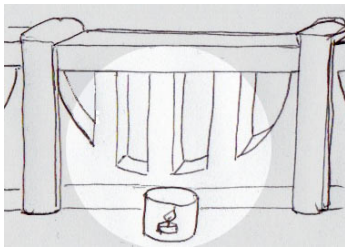
ハチ蜜の森キャンドル点灯術

明鏡橋を照らしました！

毎年、なにかを蜜ろうで照らすのが恒例となってきましたが、昨年は朝日町が誇るアーチ橋「旧明鏡橋」の高欄を照らすことができました。

旧明鏡橋は、昭和 12 年に最上川ではじめて架けられたコンクリート橋で、そのデザインや技術が認められ、土木学会が選奨する土木遺産に認定されました。橋の写真家平野暉雄氏は「開腹型コンクリートアーチ橋では日本一心なごむ橋」と言って下さいました。

10 月に架橋 70 周年を記念したライトアップが観光協会主催で行われましたが、それに合わせて橋上の高欄の内側を蜜ろうそくで照らしたのです。3m ごとにガラスの器に入れて、70 才なので 70 個灯しました。小さな円弧の連続する切り込み模様のコンクリートの風格を見せたかったのです。残念ながら、あいにくの雨と、花火の華やかさに、押されてしまいましたが、「きれいだね」と言って下さる方が何人もいらして、なんとか目的は達成できました。消えかかった炎の手入れをご協力下さったみな様、ご覧下さいましたみな様、ありがとうございました。



こんな感じを 70 個の蜜ろうそくで

(準備したもの)

- ・ガラスの器 (100 円ショップで購入)
- ・ティーライトキャンドル

※蜜ろうそくは、覆われた器に入れると流れやすくなります。カップに入ったティーライトキャンドルがおすすです。また、狭い器に入れると酸欠をおこして苦しそうにススを立てながらゆらぎます。直径 15 センチ位の大きめの器がおすすめです。

蜜ろう利用術⑩

オカリナ



山形市にお住まいの井上輝雄さんは、蜜ろうを手作りオカリナの仕上げに使って下さいました。

陶芸を趣味となさる井上さんは、30 年前、宗次郎にあこがれたことをきっかけにオカリナ制作を始めたのだそうです。十数個作っても上の音が出ず挫折したこともあったそうですが、5 年程前に再開し、これまで 100 個以上を手がけられました。焼き上がって初めて音を出すときはとても嬉しいそうです。

蜜ろうは、溶かして塗ったものを、バーナーであぶりながら拭き込んだり、椿油を混ぜてペースト状にしたものを塗って仕上げられました。最近の安全指向やシンナーの臭いが嫌がれる傾向を踏まえてとのこと。通常使っているカシュー油 (人工漆) と違った落ち着いた仕上がりになったそうで、「まずは満足」とメールを下さいました。

私もどうしても見てみたくなり、お邪魔させていただきました。色合いも触った感じも優しくナチュラルでとても美しかったです。そして井上さんの奏でるその音の優しさに聞き惚れてしまいました。

これからは、もっと艶を出すために、蜜ろうをベースに、「荏胡麻油」や「松やに」を混ぜたものなども試したいと話して下さいました。

井上さんの愛情いっぱいで作られたオカリナを見ていると、私もとても誇らしい気持ちになりました。



井上さんとオカリナ

ハチ蜜の森料理店⑨

ドーナツ



我が家でも大好きな「ミスタードーナツ」のドーナツには、いろんな味や形、色があって、とても華やかです。でも、優柔不断な私はいつも「オールドファッション」という昔ながらの形のものを選びます。生クリームやチョコがトッピングされていない昔ながらの定番です。そんなに甘くないのと、私のドーナツのイメージがかなり固定されてしまっているせいもあると思います。

子どもの頃、ミスタードーナツはなかったので、ドーナツは憧れの食べ物でした。母が作るドーナツは、グラスやさかづきを道具にして作りました。平たく伸ばした生地を、グラスを逆さにして丸く抜き取り、穴は細長いさかづきを逆さにして抜き取るのです。私も面白くて手伝った記憶が残っています。必然的に、出来上がりは、輪っか型と真ん中の小さな丸形もありました。

ハチミツや粉砂糖をかけて食べました。オールドファッションの半分しかない小さなサイズでしたが、私たち子どもには楽しみなドーナツなのでした。

掲載誌紹介 ご紹介いただきました！

・PS 10月号（小学館）

宮崎あおいの楽しくかわいくエコ DAYS

・42人のおすすめ雑貨（主婦の友社）

プチココさんの

使うたびに もっと好きになる日用品

・別冊天然生活 vol.4（地球丸）

中川ちえさんが見つけた

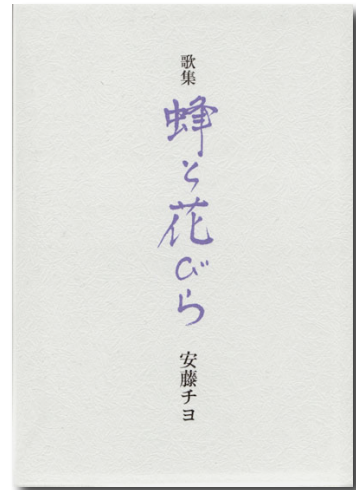
毎日が心地よくなるオーガニックアイテム

ありがとうございました。

ハチ蜜の森文庫⑨

移動せんと蜂の帰り待つ夕空を
蜂と花びらと混じりおり来る

ウェディングのキャンドル総て
手作りし蠟燭屋となる吾子結婚す



『蜂と花びら』（短歌新聞社）

安藤チヨ

上下巻 5000円

山形県朝日連峰の山あい暮らす
養蜂家族の生活を綴った歌集です。
最愛の夫への長い長い弔いの歌集です。
家族の絆を結び直す歌集のようです。
(竜二)

※興味ある方は短歌新聞社へ

tel 03-3312-9185

<http://www4.ocn.ne.jp/~tanka/>

ミツバチ墜落

何年ぶりだったか。ミツバチの墜落を防ぐため、巣箱の前に雪を積み上げる仕事を手伝いました。

昨年十一月。私の住む山形県内陸部にも、十一月としては観測史上初となる大雪が降りました。このような極端な気象の変化は「地球温暖化」の影響と見なしてよいのではないのでしょうか。降り続けた雪は、私の手伝っている養蜂場にも三十センチ近く積雪を残し、まもなく冬型が去ると、打って変わって秋晴れの青空となりました。ミツバチの墜落はこんな日に起こるのです。

今回は、気温が上がる前に処置することができたので、僅かな犠牲で済みましたが、実はだいぶ前に苦い経験をしたことがありました。

あの日も青空と一面の銀世界。私は信じられない光景に目をみはりました。秋晴れの空に、勢いよく飛び出したミツバチ達が、そのままの勢いで雪の上に墜落していくのです。まるで操縦不能になった小型ジェット機のようなでした。

「雪に反射した紫外線で、空と地面の区別がつかなくなってしまふんだ」と、父が教えてくれました。よく見ると、すでに養蜂場の雪上には、おびただしい数のミツバチが落下し、黒い点々がどこまでも広がっていました。それ以上飛び出さぬように、急いで巣箱の前を雪で覆いましたが、大きな被害となってしまいました。

ミツバチが持つささやかな体温は、命と引きかえに、雪を二、三センチ程の深さに丸く溶かしていきます。落ちたばかりの一匹を、父が手のひらに載せ、暖かな息を吹きかけると、もぞもぞと元気を取り戻しました。かわいそうに思った母が、たまらずビニール袋を手に一匹ずつ拾い始めました。気休めとは思



雪に落ちたミツバチ

いつつも準じ、三人でおそらく千匹以上は拾ったでしょう。車の暖房で息を吹き返したそのミツバチ達は、家族の少ない群れにそっと入れてあげました。おそらく、二十年程前の出来事です。

ところで、前号でも触れましたが、厄介者のキイロスズメバチが、ここ二年異常に減少しています。ミツバチを餌にされてしまうから、養蜂家にとっても、それは喜ばしいことではあります。しかし、一日に百匹も二百匹も襲いにやってきていたのが、昨年も今年も数匹程度だったのです。頼まれる近隣市町の駆除依頼も、毎年三、四十件はあったのですが、一昨年は三件。昨年はたった一件でした。二十五年も養蜂を手伝ってきてこんな事は初めてです。正直言って気持ちが悪いのです。

スズメバチとミツバチでは生き方が違うから、同じ理由はあてがえないにせよ、なにかしら似たような温暖化の影響を受けているのではないかと思うようになりました。他の昆虫や連鎖する生き物達はどうでしょう。

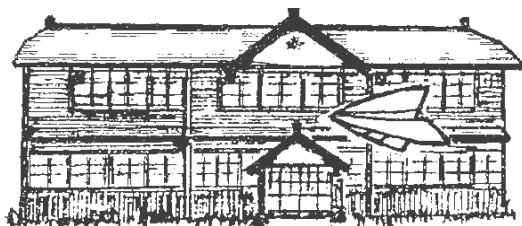
そういえば、私たち人間にも同じようなことがありました。一昨年の記録的な被害をもたらした大雪です。たしか全国で百四十人余りの命が奪われました。命を落とされた方のほとんどは、雪の専門家であるはずの雪国の人々です。長年培ってきた経験が通用しない冬だったのです。

温暖化の影響は、けっして緩やかに訪れるものではないようです。もっと真剣に、身近の温暖化対策に取り組もうと思っています。

(河北新報「座標」2008. 1. 26 掲載を一部加筆)

イベントお知らせ

大暮山分校白い紙ひこうき大会 ついに最終回!



閉校した1999年から、「思い出つくり」と、開催してきた白い紙ひこうき大会も、いよいよ10回大会を迎えます。

残念なことに、木造校舎の安全が保てないので、今年の夏の大会で終わりにして欲しい旨、所有者の朝日町よりついに申し出がありました。確かに冬を迎えるたびにあちこちが痛んでいました。(この冬の傷み具合によっては10回大会も危ういかも知れません)財政難の町は、一円たりとも直す費用を充てられないのです。

スタッフ一同、10年近く遊び場にさせていただいた校舎への感謝と優しさあふれる最終大会をめざします。

日時は、まだ決まっておりませんが、例年のパターンからすると、大会は8月9日(土)もしくは10日(日)頃、大掃除は3日(日)あたりとなりそうです。決まり次第ホームページでお知らせいたします。近隣のみな様、ぜひ夏の日のワンシーンを切り取りにいらして下さい。

白い紙ひこうき大会ホームページ

<http://lavo.jp/ryuzi/>

2008年の営業について

■工房ショップ

4/29より12/21までの土日祝日のみ営業。

※ホームページからの通信販売は、年中受けております。

■体験(工房・出張)

予約制で年中。(10-12月は土・日のみ)

編集後記

今回も、ラジオで聞いた話を引用してしまいましたが、実はNHKラジオが大好きなのです。

きっかけは、15年前に立木小学校が解体される時にいただいてきた真空管ラジオです。給食室にありました。でも、スイッチを入れても音が出ないのです。「やっぱり壊れている」と、あきらめかけた頃、静かに小さく、だんだん大きく音が表れました。若者には思いがけない真空管ラジオのはじまり方でした。益々気に入ってしまいました。

ところが、感度が良すぎるのか民放は雑音だらけで、NHKだけが澄き通った音なのです。「使えないな」と思いましたが、その魅力に負けてしまいました。なにしろ、何十年間も給食のおばさん方がこのラジオを聞きながらおいしいものをこしらえてくれたのです。きっと聞いていたのはNHKラジオです。しばらくそのNHKラジオに付き合ってみることにしました。

ところが、だんだん惹き込まれてしまったのです。まず、全体の流れがゆっくりです。ハイテンションなCMが突然入ったりもしませんのでとても聞き心地が良く、私のゆっくりなリズムに合っていました。そして、耳からあらゆる分野の多くの情報を得られます。楽しく面白くなにより分かりやすく、時には涙ありで流れてきます。

なにより一番好きなのは、インタビュー番組です。午前中には必ずありますし、番組ごとにいろんな分野の方の生き方や専門的な話を聞くことができるのです。私は講演会でじっくり人の話を聞くのが苦手ですが、NHKラジオなら毎日何人もの講演をただで聞いているようなものなのです。しかも仕事もできます。このラジオが手に入ってから聞いた15年間分は、私の宝物と言えます。そしてこのラジオはもっと宝物です。

ところがある日、突然音を出してくれなくなってしまったのです。今は仕方なくラジカセで聞いていますが、やはり音が全然違うのです。あの深く透き通った優しい音が恋しく、悲しい状況です。どなたか直せる方いらっしゃいませんか?直せる方ご存知ありませんか?

NHKラジオホームページ <http://www.nhk.or.jp/radiodir/>

近頃は、山本シュウさんが“でんしれんち”の「ゆうきのうた」を紹介なさっていました。いい歌ですよ。

でんしれんち <http://denren.ohesio.com/>

通信ご購読について

- ・定期購読を希望される方は、1000円(およそ5年分、80・50円切手可)をお送り下さい。
- ・購読期限は、お送りした時の封筒の住所下に、たとえば12-32と号数を明記しています。